

なおかつですね、まあ、お酒の席でしたが男の約束は絶対に皆さん守ってくれると思っているので、小栗会員の次が杉野会員です。(再び拍手が起こる)そして次が菊地会員です。(拍手)そして次が岡安会員で次が舟木会員で、その後に佐々木会員と、さらに次が佐藤圭会員と・・・。7年後ですが、皆さんですね健康を大事にしてですね、佐藤会長まで見届けられるように元気で行きたいと思っています。宜しくお願い致します。

★ 幹事報告

岡安幹事欠席の為、発表は割愛させていただきます。お手元の例会案内をご覧ください。

- ・9月のロータリーレートは1ドル=146円です。
- ・米山梅吉記念館より、秋季例祭の御案内、賛助会ご入会のお願い、館報 vol.42 が届いています。
- ・米山記念奨学会よりハイライト米山 vol.281 が届いています。
- ・釧路 RC、釧路北 RC、釧路東 RC、釧路南 RC、釧路ベイ RC、浜中 RC より9月のプログラムが届いております。
- ・RI 日本事務局より財団室ニュース9月号が届いております。

★ 委員会報告

平副幹事より

- ・マスターズゴルフ大会参加申込は9月8日までとなっておりますので宜しくお願い致します。
- ・今回より、例会前に例会の出欠確認をしてホテルへ連絡する流れとなりました。皆様の御協力を宜しくお願い致します。



★ 本日のプログラム

「基本的教育と識字率向上月間・会員卓話」
担当 国際奉仕委員会



国際奉仕委員長 三木 克敏君

皆さんこんにちは。9月がですね「基本的教育と識字率向上月間」となっております。私、会長、幹事、国際奉仕と担当させて頂いて月間のプログラムには頭を悩ませておりますが、何をやっていいのか本当に悩む所です。以前、日本人の識字率という事から地域の子供たちの問題ということでやらせて頂いた事がありました。前回の家庭集会で出ておりましたコロナでさっぱりロータリーの活動が出来ず、ロータリーがどれだけ有意義な活動をしているのかというの、わかりやすくそういうのを伝えられる例会があるのではないかなというの踏まえまして、今日はですね、実はロータリーの奨学生でらした、私もだいぶ前に確か張江さんに教えて頂いたと思うのですが、UNHCR 国連難民高等弁務官事務所の代表でらした緒方貞子さんに、今日は焦点をあてて、少し早めに終わるかなと思いますが、今日は緒方さんの人となり、そういう事についてお話させて頂きたいと思います。



緒方さんなんですけれども、1951年日本人として2人目の国際親善奨学生になられたという事で、調べましたら1932年、海軍の青年将校らに暗殺された、いわゆる515事件というのがあります、その時に射殺された犬養毅首相のお孫さんにあたるそうです。お父さんが外交官であったという事で国々を点々とする中で、そして日本の奨学生としてまずアメリカに渡り、そこで多くの事を学ばれたという事なんです、緒方さんのロータリーへの思いを動画にしたものがありますのでご覧下さい。



「ロータリー学友人道奉仕世界賞」受賞の言葉

私は1951年に大学を卒業しました。戦後6年のことです。日本には多くの新しい考えが入ってきました。民主主義、女性教育、わくわくする時代でした。大学院に行くチャンスはありました。でもロータリーの奨学金のおもしろい所は友好と相互理解を深める親善大使として外国に派遣されることでした。これは魅力的でした。新しい生き方を学びながらこれを日本に持ち帰ろうと思っていました。私が奉仕の道を選んだと言えるかしら？私の奉仕の多くは大学や外交の世界のことですから、でもロータリーの奨学金をいただくことがなかったら、きっと大学にとどまっていたでしょう。ロータリーに触れていたことで自然に奉仕の理想を見つけていたのかも知れません。人はみな自分なりの恩返しをするものです。ロータリー学友人道奉仕世界賞です。大変名誉なことで驚きまた嬉しく思います。ロータリーには感謝しています。いろいろな場所に招待していただき、様々な職業を持った方とお会い出来ました。ロータリーの奨学生として出会いを通じ多くの事を学ぶ事が出来ました。本当にありがとうございました。



緒方 貞子さん

2019年10月22日ご逝去(92歳)

支援の為に訪れたのは120を超える国や地域
世界の平和と人々の幸せの為にその半生を捧げました。

緒方 貞子さんの言葉

1960
Age 33

『女性が子どもを産み、育てることは、キャリアを重ねていく上で、ハンディになることもあります。



でも、女性には男性とは違うサイクルがあるのです。』

1960
Age 33

『だから、焦って目標を決めるより、

自分のサイクルに合わせてゆっくりと生きながら、長期戦で構えた方が良いと思うのです。』



1979
Age 52

『ただ、本は読まないで……。

体系的に問題を理解するには、きちっと勉強しなきゃだめなのです。

だから、両方ですね。』



1976
Age 49

『人間は仕事を通して成長していかなければなりません。その鍵となるのは好奇心です。』



『常に問題を求め、積極的に疑問を出していく心と頭が必要なのです。』

1979
Age 52

『難民問題というのは生死に関わっているような場合が多いから、

現場に行かないと分からない、ということは痛感しました。』



1991
Age 64

『国境を越えたら支援する、国境を越えないなら支援しない、ということでは

目の前のクルド問題は解決できません。』



『一貫して申し上げたいのはやはり現場を重視してほしいということ。』

『どんな所でも、積極的にやれることをやりながら、この何とも言えない内向きの日本を直してってください。それは一つのお願いです。』



100年後の皆さんへ

(著書:共に生きるということ be humane より)

10年、20年後はいざ知らず、100年後というのは想像を絶する遠い将来ですので、グローバル化の結果、その時に「国」が残っているのか「地域」が残っているのかすらわかりませんが、人間が生きている限りは色々な試みを続けていくと思うのです。その中で日本もいい形で、いい考え、いい試み、多様な幸せの在り方を打ち出して、他を引っ張っていける立派な人々と、国であってほしいと思っております。

★次週例会の御案内

2023年9月25日(月曜日) 18:30～

「食欲の秋 家族例会」夜間例会

♪カラオケ大会を予定しています

担当 クラブ奉仕・親睦活動委員会

★ 点鐘 金田 剛 会長